

2022年度
事業報告

公益財団法人日本ナショナルトラスト

目次

| | |
|-------------------------------------|-----------|
| I 現況 | 1 |
| 1. 事業 | 1 |
| 2. 役員 | 1 |
| 3. 評議員 | 2 |
| 4. 事務局 | 2 |
| 5. 事業資金 | 2 |
| II 理事会・評議員会 | 3 |
| 1. 理事会 | 3 |
| 2. 評議員会 | 3 |
| III 事業実施の概要 | 5 |
| 1. 調査事業 | 5 |
| 2. 保護事業 | 5 |
| 3. 普及事業 | 12 |
| 4. 支援事業 | 16 |
| 5. ネットワーク事業 | 16 |
| 6. 団体交流事業 | 17 |
| 7. その他 | 19 |
| IV 登記事項、届出・報告・申請事項 | 20 |
| 参考 アドバイザー名簿、顧問名簿および観光資源専門委員名簿 | 21 |

I 現況

1. 事業

定款に掲げる事業は、次のとおりである。

- (1) 国民的財産として後世に継承するに足る観光資源の認定
- (2) 前号により認定された観光資源(以下「保護対象」という。)の取得および管理運営
- (3) 観光資源に関する保護活動への支援
- (4) 観光資源に関する保護思想および知識の普及向上
- (5) 観光資源に関する学術調査研究並びに情報の収集および提供
- (6) 政府および関係機関への観光資源の保護に関する建議又は陳情
- (7) この法人の健全な発展を図るために必要な関連事業の経営
- (8) その他目的を達成するために必要な事業

2. 役員

(1) 2023年3月31日現在の役員

| | | |
|------------------|-------|-------------------------------|
| 会長 (代表理事) | 梅崎 壽 | 東京地下鉄(株)名誉顧問 |
| 副会長 (代表理事) | 銭谷 眞美 | (公財)新国立劇場運営財団理事長 |
| 理事長 (業務執行理事) | 大庭 靖雄 | 常勤 |
| 副理事長 (業務執行理事) | 中村 仁 | (公財)日本ナショナルトラスト関西支部長 |
| 理事 | 岩崎 悟志 | 西日本旅客鉄道(株)常務執行役員ガバナンス推進本部長 |
| 理事 | 小川 孝行 | 東京地下鉄(株)常務取締役 |
| 理事 | 苅谷 勇雅 | 元・文化庁文化財鑑査官 |
| 理事 | 久保田 穰 | (公社)日本観光振興協会理事長 |
| 理事 | 柴崎 信三 | 元・日本経済新聞社論説委員 |
| 理事 | 志村 格 | (一社)日本旅行業協会理事長 |
| 理事 | 杉浦 雅也 | 東海旅客鉄道(株)常務執行役員営業本部長 |
| 理事 | 鈴木 雅和 | 筑波大学芸術系名誉教授 |
| 理事 | 高橋 弘行 | 東日本旅客鉄道(株)常務執行役員 |
| 理事 | 福本 啓二 | 前・(一社)日本民営鉄道協会理事長 |
| 理事 | 降幡 賢一 | 日本エッセイスト・クラブ事務局長(元・朝日新聞社編集委員) |
| 理事 | 美里 隆司 | (公財)日本交通公社理事 総務部長 |

| | | |
|-----|-------|----------|
| 理 事 | 廻 洋子 | 敬愛大学特任教授 |
| 理 事 | 森 まゆみ | 作家 |

(以上理事 18 名)

| | | |
|-----|-------|---------------|
| 監 事 | 今村 正 | 税理士 |
| 監 事 | 佐藤 栄治 | (公財)鉄道弘済会専務理事 |

(以上監事 2 名)

3. 評議員

(1) 2023 年 3 月 31 日現在の評議員

| | | |
|-----|-------|-------------------|
| 評議員 | 大西 孝夫 | 元・(一財)休暇村協会理事長 |
| 評議員 | 黒野 匡彦 | (一財)運輸総合研究所顧問 |
| 評議員 | 清野 智 | (独)国際観光振興機構理事長 |
| 評議員 | 曾我 健 | 元・(公財)NHK交響楽団理事長 |
| 評議員 | 高橋 広行 | (株)JTB代表取締役会長 |
| 評議員 | 堤 哲 | 元・毎日新聞編集委員 |
| 評議員 | 伏屋 和彦 | 元・会計検査院長(元・国税庁長官) |
| 評議員 | 森地 茂 | 政策研究大学院大学客員教授名誉教授 |

(以上評議員 8 名)

4. 事務局

2023 年 3 月 31 日現在の職員 4 名

5. 事業資金

本財団の事業資金は、事業賛助団体からの寄付金並びに個人および団体からの会費等による。

Ⅱ 理事会・評議員会

1. 理事会

- (1) 第1回理事会 2022年5月25日 午前10時～11時15分
- 開催場所 東京都千代田区麹町4-5 海事センタービル7階会議室
- 決議事項 2021事業報告および決算報告、顧問の選任、観光資源専門委員の委嘱、公印取扱規程の改定、2022年度定時評議員会提出議題について
- 報告事項 代表理事・業務執行理事の職務の執行の状況の報告、支援事業、2022年度第2回理事会について
- 出席等 決議に必要な出席理事の数10名、出席16名、欠席2名。監事出席2名。
- (2) 第2回理事会 2022年6月14日
- 開催方法 決議の省略の方法
- 決議事項 代表理事(会長および副会長)の選定、業務執行理事(理事長および副理事長)の選定について
- 出席等 提案書に対し、理事18名全員の書面による同意の意思表示および監事2名全員からの書面による異議がないことの意味表示を得た日をもって、理事会の決議があったものとみなされた。
- (3) 第3回理事会 2023年3月6日 午前10時30分～11時40分
- 開催場所 東京都千代田区麹町4-5 海事センタービル7階会議室
- 決議事項 2023年度事業計画および収支予算、2023年度補助金等の交付申請、特定資産の取崩、顧問の選任、2023年度定時評議員会の開催(案)について
- 報告事項 代表理事・業務執行理事の職務の執行の状況の報告、支援事業、2023年度第1回理事会について
- 出席等 決議に必要な出席理事の数10名、出席15名、欠席3名。監事出席2名。

2. 評議員会

- (1) 定時評議員会 2022年6月14日 午後3時30分～5時
- 開催場所 東京都千代田区麹町4-5 海事センタービル4階会議室
- 決議事項 2021年度事業報告、決算報告、理事の選任、監事の選任について
- 報告事項 2022年度事業計画および収支予算、2021年度第2回および2022年度第1回理事会の決議、支援事業について

出席等 決議に必要な出席評議員の数 5 名、出席 6 名、欠席 2 名。代表理事
出席 1 名、監事出席 2 名。

Ⅲ 事業実施の概要

本年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症が社会に様々な影響を与えた年であった。当財団においては、制限を受けながらも、感染対策を徹底することで積極的に活動を展開し、感染流行以前の状況に近い形で事業運営を行うことができた。各保護資産においては季節の行事や特別公開等を開催し、白川村では3年ぶりとなる茅刈り行事を現地開催した。また、保護資産を健全な状態に保ち、価値を向上させるために必要な工事や計画の検討を行った。さらに、観光資源である貴重な地域遺産を、地域が自立的に保全活用する活動を支援する新たな事業について、内閣総理大臣より公益目的事業変更認定を受けた。その実施体制の検討などを開始した。このように、将来に向けて事業基盤を発展させるため、(公財)日本ナショナルトラスト(以下、「JNT」)役職員が一丸となってその業務に取り組んだ。

1. 調査事業

(1)文化財保存活用地域計画策定フォローアップ(石川県輪島市)

前年度に計画書を完成させ輪島市からの受託業務は完了したが、本年度は文化庁の認定を得るためにフォローアップを行い、7月22日に文化財保存活用地域計画の認定を受けることが出来た。

(2)観光資源保護調査フォローアップ(長崎県島原市)

過去に観光資源保護調査を実施した長崎県島原市でフォローアップ調査を行った。現在のまちづくりや観光資源の活用状況等についてヒアリングを行った他、11月18日に開催されたまちづくり談義に職員が出席し意見交換を行った。

2. 保護事業

(1)文化財取得保護計画に基づく保護事業

①白川郷合掌造民家の修復と管理運営(岐阜県白川村)

旧松井家の管理を引き受けている白川ボックスが、7月12日に総会を開催した。なお新型コロナウイルス感染状況にかんがみJNT職員は欠席した。また、8月22日に白川郷合掌文化館および旧寺口家管理運営委員会を書面で開催した。前年度の事業報告と本年度の事業計画を議題とし、異議なく承認された。これまで、例年10月に行われる白川村荻町祭礼(どぶろく祭り)に職員が参加してきたが、本年度は新型コロナウイルス感染症の影響で祭事が中止になった。旧寺口家の屋根が傷んできたため、11月5日に屋根片面の差し茅を行い健全な状態に保った。

《管理運営委員会の構成》

大田忠広・JNT 白川ボックス代表、野谷信二・白川郷荻町集落の自然環境を守る
会会長、和田茂・JNT 白川ボックス事務局、川田裕・白川村老人クラブ長生会
会長、宮丸和之・白川村教育委員会教育長、安藤邦廣・筑波大学名誉教授、JNT 他
* 旧松井家 貸館 4 件

②動態保存車両(トラストトレイン)の運行と修理 (静岡県大井川鐵道)

トラストトレインの運行は例年通り全 5 回を予定していた。しかし、大井川鐵道
(株)から車両整備の遅れ等の事情により運行を見送りたいとの申し出があり、親
子ボランティアを含め、本年度の運行は全て中止となった。そのため、本年度は
ボランティアミーティングを充実させ、新規ボランティアの獲得に向けて意見交
換を行うなど、運行日以外の活動に注力した。また、活動の PR のためトラスト
トレインのインスタグラムを開設した。その他、新型コロナウイルス感染拡大防止の
ため延期になっていた安全講習会を大井川鐵道(株)の協力を得て、10 月 1 日に実
施し、6 名のボランティアが参加して車両清掃も行った。さらに、12 月 26 日に理
事長と職員が参加して大井川鐵道(株)代表取締役社長らと意見交換を行い、来年
度の運行および寄託した蒸気機関車 C12 の動態復元の推進を同社に要請し、前向
きな回答が得られた。2 月に大井川鐵道(株)と開催した運営会議では、2022 年度の
活動報告と 2023 年度の活動計画等について協議を行った。2023 年度の活動計画で
は例年通り 5 回のトラストトレイン運行計画が固まった。

<運行日活動>なし

③名勝旧大乘院庭園保存整備と管理事業 (奈良県奈良市)

6 月 30 日に保護管理委員会を開催し、前年度の事業報告および本年度事業計画に
ついての審議を行った。また、同日に管理協議会を開催し、管理の報告および計
画について協議を行った。維持管理については、例年実施している維持管理作業
に加えて、良好な景観を維持するため、前年度に引き続き樹木の剪定等の追加作
業を実施した。8 月にはマツ枯れ被害を受けたクロマツの伐採、9 月には枯損した
ラカンマキの伐採を行った。1 月には奈良ホテル駐車場に隣接する柵が駐車場利
用者の車両の衝突により毀損したため修理を行った。修理費用は加害者側の保険
により全額補償された。活用については、本年度は新型コロナウイルス感染症の
影響により、なら燈花会などの公的な行事の受け入れや関西文化の日のイベント
への参画を中止した。一方で、感染対策を徹底して、恒例の観月の夕べ、大文字
送り火鑑賞会を開催し、参加者から好評を得ることができた。

《保護管理委員会の構成》

尼崎博正・京都芸術大学教授(JNT 観光資源専門委員)、本中眞・奈良文化財研究
所所長(JNT 観光資源専門委員)・奈良県、奈良市、西日本旅客鐵道(株)、JNT 他

* 入園者数 13,544名(公開日数298日)、ロケーション利用等52件

* 奈良県および奈良市補助事業

④東京都指定名勝旧安田楠雄邸庭園の修理と管理活用事業(東京都文京区)

9月29日に保護管理委員会を開催し、前年度の事業報告を行った。本年度の事業計画では、保存活用計画の更新などについて諮り、異議なく承認された。更新を進めるため保存活用計画更新検討WGを開催し、旧安田楠雄邸庭園の価値、更新に向けた調査計画、保存活用の方向性等について協議した。また、生活文化資料の調査を実施した。建物の保護管理については、雨戸等の小修理を実施した。管理活用の面では、定例の活用WG会議を2~3カ月に1回程度開催した。感染対策を徹底しながら、特定非営利活動法人文京歴史的建物の活用を考える会(通称:たてもの応援団)や専門家と協議しつつ、五節句行事等のイベント実施や貸館等による活用に努めた。その他9月1日から10月末までの期間、文京区が実施する「文の京ミュージアムネットワーク入館料助成キャンペーン」に参加した。549人の来館者がこの制度を利用し、無料で旧安田楠雄邸庭園を見学した。東京都が実施する東京文化財ウィークや東京いい庭キャンペーンにも参画し、自治体による文化的活動に協力した。このように、様々な主体と連携し、管理活用を行った。

《保護管理委員会の構成》

井手久登・東京大学名誉教授(JNT観光資源専門委員)、樋渡達也・前文化財指定庭園保護協議会会長、河東義之・小山工業高等専門学校名誉教授、内田青蔵・神奈川大学教授、服部勉・東京農業大学教授、JNT 他

* 東京都補助事業

* 一般公開5,424名(公開日数106日)、貸館・団体見学・映像・写真撮影等238件

⑤京都市指定文化財駒井家住宅の修理と管理活用事業(京都府京都市)

9月26日に保護管理委員会を開催し、前年度の事業報告と本年度の事業計画を諮り、異議なく承認された。事業計画のうち、駒井家の修理方針策定等について協議し、修理の基本的な考え方、体制、調査等の進め方について審議した。また、本年度は作業グループを設け、基礎調査として事例調査やヒアリング調査を行った。調査では、駒井家に関する新たな資料も見つかり、離れの建築年の手がかりを得ることができた。9月23日に離れ2階開口部ガラスの落下が確認された。10月1日、該当箇所のガラスを建具に固定する応急処置を行うと共に、主屋、離れ、温室、付属屋の建具の全点検を行い、落下の可能性のある建具について応急処置を施した。今回の落下事故による人的被害はなかった。また、発見から応急処置が実施されるまで、安全を確保するため休館した。建具全点検の際、柱の座

屈など離れの老朽化が顕著であることが確認された。当面の建具修理と今後の本格的な離れ修理に向けて、2月に当初形態・仕様調査を実施した。また、主屋の樋の一部が、詰りや傾きの不具合により機能していない状態だったため、12月に修理を行った。庭園の管理については、4月21日に京都芸術大学の造園実習を受け入れ、同大学尼崎博正教授(JNT 観光資源専門委員)指導のもとで学生が剪定等を行った。公開、活用に関しては、4月20日、27日に京都市観光協会等と連携したイベント「京都に遺る近代建築 和洋の美」や、10月23日開催の「駒井家住宅チャリティージャズコンサート with 蓑輪裕之トリオ」など多様なイベントを実施した。ジャズコンサートは初めての試みであったが、イベント告知後数日でチケットが完売してしまうほど好評であった。また、秋の特別公開として駒井卓没後50周年企画展「藤田恵子と田中花音展 ボタニカルアートとサイエンスアートの融合」を開催した。前年度に温室修理工事のチャリティーイベントとして実施したガーデンヨガは、本年度も継続しており、定番のイベントとしてリピーターも定着しつつある。

《保護管理委員会の構成》

山形政昭・大阪芸術大学名誉教授、尼崎博正・京都芸術大学教授(JNT 観光資源専門委員)、松井正文・京都大学名誉教授、三村浩史・京都大学名誉教授(JNT 観光資源専門委員)、吉田友彦・立命館大学教授、JNT 他

* 京都市補助事業

* 一般公開 1,356名(公開日数 69日)、貸館・団体見学・映像・写真撮影等 24件

⑥文化財取得保護計画募金計画の継続

文化財取得保護計画における募金計画の成果を受けて、各保護資産において適切な維持管理および利活用の促進を目指した修復を実施するために、経済界をはじめ関係諸団体、会員などに対し広く呼びかけを行い、募金活動を推進した。

(2) その他の保護事業

①天心遺跡記念公園および天心墓地の保護管理(茨城県北茨城市)

6月29日に保護管理委員会を開催し、前年度の事業報告と本年度の事業計画について承認が得られた。維持管理については、例年通り北茨城市から維持管理のための補助金交付を受け、年間の維持管理業務を(公社)北茨城市シルバー人材センターに委託した。天心遺跡記念公園においては、定期的な除草や清掃作業、天心墓地では、除草作業と月2回の点検および供花を行った。4月22日に、前日までの大雨・暴風の影響で天心遺跡記念公園内の柵が倒壊したため修理を行った。その他、前年度に墓地周辺に植樹した梅の木について、由来の分かる看板を設置した。9月2日に開催された天心忌「献花&セミナー」では、「岡倉天心と日本ナシ

「ヨナルトラスト」をテーマに職員が講演を行った(主催：五浦日本美術院岡倉天心偉績顕彰会)。また、11月1日～20日の期間で恒例の観月会が開催された。

《保護管理委員会の構成》

豊田稔・岡倉天心偉績顕彰会会長、小泉晋弥・茨城大学名誉教授、小泉淳一・茨城県立天心記念五浦美術館館長、JNT 他

* 北茨城市補助事業

②ED70形1号交流電気機関車の保護管理 (滋賀県長浜市)

西日本旅客鉄道(株)寄贈のED70形1号交流電気機関車について長浜市民やボランティアによる保護管理を行い、広く一般に公開している。本年度は、長浜観光協会が、北陸線電化記念館で展示されているED70形1号交流電気機関車のオリジナルグッズを作成した。長浜駅開業140年を記念して実施された事業であり、JNTが作成に協力した。

③巻機山の景観保全 (新潟県南魚沼市)

東京農業大学と連携し、植生復元のためのボランティア活動として種子採取・播種・登山道整備・木道脇の緑化ネット設置作業や客土・播種のモニタリングなどの植生調査を実施した。

活動実施日 8月28日～29日

参加者総計 11名

④東日本大震災 自然・文化遺産復興支援プロジェクトの調査・報告

プロジェクトの終了に伴い、その支援対象と関係自治体に対し、事業実施後の状況把握と今後の計画などを調査するためのアンケート調査を実施した。支援対象55件のうち申請者からは32件、推薦者(自治体)からは36自治体中19件の回答があった。このアンケート調査およびヒアリング調査の結果をまとめ、報告書を作成した。

(3)ヘリテイジセンターの管理運営

①葛城の道歴史文化館の管理運営 (奈良県御所市)

当文化館には葛城の道散策マップや街道の神社・仏閣に関する資料、伝統行事の写真などが展示されており、葛城古道を散策するための情報拠点となっている。また、館内には休憩所と集会所を備え、住民と来訪者が交流し、歴史を活かしたまちづくりや歴史環境の保全について考える場としても活用されている。

(入館者数 7,349名)

②飛驒の匠文化館の管理運営（岐阜県飛驒市）

市内の小・中学生や、富山県職藝学園、愛知県立旭丘高等学校などから学生が見学に訪れた。その他、高山西高等学校と東京大学・慶應義塾大学の学生らが行う「ぎふグローバル人材育成推進事業」の会場となり、飛驒の魅力の確認や課題の検討が行われた。また、ロンドンにある日本文化の紹介施設「ジャパン・ハウス・ロンドン」やサンフランシスコにあるショッピングモール「ジャパンセンター」で継手組木等の展示を行い、木工文化を紹介した。11月以降は海外の来館者が増え、ロンドンの展示を見て飛驒の匠文化館に来館したケースがあった。（入館者数 5,555 名）

③白川郷合掌文化館(旧松井家)の管理運営（岐阜県白川村）

白川村在住の JNT 会員からなる白川ボックスと管理業務委託契約を締結しており、日常点検や清掃、軽微な修理、屋根のメンテナンス等を実施した。7月12日には白川ボックス総会を開催し、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、白川郷合掌文化館(旧松井家)の夏季一般公開を中止することを決定した。
(入館者なし)

④名勝大乘院庭園文化館の管理運営（奈良県奈良市）

前年度には新型コロナウイルス感染症の影響で開催できなかった「観月の夕べ」や「珠光茶会」が本年度は開催された。館内では、当文化館主催の「二十四節気書画展示」や「描かれた大乘院庭園 資料館」が行われたほか、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所の協力を得た「発掘された庭園一つちに埋もれた古の庭資料展」や、奈良市美術館ミニ出張展示「写真資料からみる奈良市きたまち界わいの風景」が開催された。
11月22日に管理運営委員会が開催され、副理事長と職員が出席した。
(入館者数 29,238 名)

⑤長浜鉄道文化館の管理運営（滋賀県長浜市）

年間を通じて長浜の鉄道史を紹介するなど、歴史を活かしたまちづくりの拠点として役割を發揮した。鉄道開業 150 周年を記念したイベント「鉄道スクエアイベント～夏～」(6月12日)および「鉄道スクエアイベント～秋～」(10月15日)が開催され、ミニ SL 乗車や汽笛吹鳴、新幹線車両のペーパークラフト体験など参加者が楽しめる催しが行われた。また、企画展として「鉄道写真家清水薫 追悼写真展」(4月8日～7月10日)、「～鉄道開業 150 周年記念～子どもはぐくむ日本の汽車」(10月15日～12月28日)などが開催された。
(入館者数 48,588 名) *長浜スクエアとしての入館者数

⑥琴引浜鳴き砂文化館の管理運営（京都府京丹後市）

本年度も写真展やビーチクリーン活動、貝がら手作り体験等多様な催しを実施した。11月26日から12月26日までは漂着物写真展「漂流記」、1月15日から2月26日までは「丹後フォトクラブ写真展」が開催されたほか、修学旅行や社会見学を14件受け入れた。また、京丹後市内全小学校6年生を対象とした「大地の学習」で19クラスが来館し、鳴き砂の鳴く仕組みや漂着物・岩石の種類や性質などを学んだ。また、当文化館は開館20周年を迎えたので、この時期にJNT会長と理事長が、訪問・視察した。

（入館者数7,632名）

⑦北陸線電化記念館の管理運営（滋賀県長浜市）

当記念館ではD51形蒸気機関車とED70形1号交流電気機関車を通年公開するとともに、交流電化の歴史資料等のパネルを展示した。10月15日には、親子でD51とED70を磨くイベント「機関車を磨こう」が開催された。10月14日、北陸線電化記念館における展示のリニューアルと外壁の塗装や扉の改修について、（一財）日本宝くじ協会が行う「公益法人等が行う公益事業への助成」への申請を行った。

（入館者数48,588名）*長浜スクエアとしての入館者

⑧村上歴史文化館の管理運営（新潟県村上市）

当文化館は、歴史を活かしたまちづくりの拠点として役割を発揮し、本年度は「県指定文化財 高平遺跡出土品展」（12月3日～2月19日）および展示解説会（1月8日）が開催された。また、恒例となった「城下町村上に伝わるひな人形展」（3月1日～4月3日）では、享保年間から昭和に至る時代の雛人形が展示されたほか、隣接する村上市郷土資料館や若林家住宅でもひな人形が展示された。

（入館者数9,036名）

⑨四国鉄道文化館の管理運営（愛媛県西条市）

当文化館（北館と南館）は、十河信二記念館、観光交流センターとともに形成される「鉄道歴史パーク in SAIJO」として、地域の賑わいの拠点となっている。開館15周年を記念し、12月3日、4日に「伊予西条鉄道フェスタ2022」が開催された。特別車両の展示やミニSL乗車会等の他、駅前マルシェも開催された。2日間の参加者は2,720名であった。また、毎月1度開催している「おそうじ&勉強会」では、新幹線やSL、ディーゼル機関車など、月ごとに掃除する車両を変え、様々な体験が出来る工夫を行っている。

(入館者数 45,231 名)

3. 普及事業

(1) 会員事業

① 見学会・催し物等の開催

(ア) トラストトレイン

- ・トラストトレイン運行日およびボランティア参加者数
大井川鐵道(株)の事情により本年度の運行は全て中止となった。
- ・10月1日に安全講習と客車の清掃等のボランティア活動を実施した。

(イ) 旧安田楠雄邸庭園

・主催イベント

- 4月9日・・・・・・・・・・・・・防空壕公開
- 5月4日～7日、11日、14日・・・・・・・・端午の節句
- 6月5日・・・・・・・・・・・・・福楽寄席
- 6月25日、29日・・・・・・・・・・蓄音機の音色
- 7月2日、6日・・・・・・・・・・・・・七夕飾り
- 7月10日・・・・・・・・・・・・・新内節の夕べ
- 7月16日、20日・・・・・・・・・・蓄音機の音色
- 7月の公開日・・・・・・・・・・・・・昭和初期の台所 特別開放
- 8月6日・・・・・・・・・・・・・防空壕公開
- 9月の公開日・・・・・・・・・・・・・北村四海作
大理石彫像「かげろう」展示
- 9月10日、14日・・・・・・・・・・蓄音機の音色
- 9月25日・・・・・・・・・・・・・ひとりがり
(森鷗外の「高瀬舟」)
- 10月5日、8日、12日、15日・・・・・・・・重陽の節句
(「菊のきせ綿」飾り)
- 10月22日、26日・・・・・・・・・・蓄音機の音色
- 11月23日、26日・・・・・・・・・・蓄音機の音色
- 1月の公開日・・・・・・・・・・・・・人日の節句
- 1月18日、21日・・・・・・・・・・蓄音機の音色
- 2月15日、18日・・・・・・・・・・蓄音機の音色
- 3月1日～5日、8日、11日・・・・・・・・上巳の節句
- 3月26日・・・・・・・・・・・・・しだれ桜と琵琶の音

・その他イベント

- 11月2日～6日・・・東京文化財ウィーク企画事業
となりの高村さん展第3弾「高村光雲の仕事場」
- 12月15日・・・文京ミュージックフェスタ 2022(写真等の展示)
- 11月19日～12月11日の公開日・・・秋の東京いい庭キャンペーン
(園路開放)
- 3月18日～4月16日の公開日・・・春の東京いい庭キャンペーン
(園路開放)

(ウ)駒井家住宅

・主催イベント

- 毎月2回程度・・・ガーデンヨガ
※参加費は温室募金として寄付
- 4月15日～17日・・・春の連続公開
16日には特別企画として、女性能楽師
が謡を披露する「春の宴」を開催
- 4月20日、27日・・・「京都に遺る近代建築 和洋の美」
東華菜館×旧三井家下鴨別邸×駒井家住宅
(3館連携イベント)
- 10月23日・・・「駒井家住宅チャリティージャズコンサート
with 蓑輪裕之トリオ」
- 11月23日～27日・・・秋の連続公開
駒井卓没後50周年企画展「藤田恵子と田中花音展
ボタニカルアートとサイエンスアートの融合」

②会員活動の支援

会員の自主的な活動に対して、様々な支援を行った。

(ア)地域活動

- 白川ボックス／ヘリテージセンター白川郷合掌文化館の開館・建物維持管理
- 4月19日・・・棟つつみ
- 5月2日・・・雪囲いはずし
- 7月12日・・・清掃、総会
- 8月・・・夏季開館 ※中止
- 11月25日・・・雪囲い
- 1月～2月・・・雪降ろし

(イ)サークル活動

民家・町並みサークル

情報発信を中心に活動を継続している。

10月8日・・・・・・・・・・見学会「軽井沢の別荘建築の歴史をたどる」

③会員増加キャンペーンの実施

関連団体および企業の協力により、入会申込書の配布や設置、ポスター掲出等を行い、入会促進に努めた。また、期間限定で以下のキャンペーン等を行った。

(ア)初年度会費無料キャンペーン

1月1日から3月31日までに入会した方を対象として初年度会費および入会金を無料にするキャンペーンを実施した。

(イ)プラスワンキャンペーン

4月1日から5月31日まで会員の紹介者に対して入会金無料および会報のバックナンバー無料などの特典を付与したキャンペーンを行い、積極的にPRを行った。

(2)広報事業

①会報「日本ナショナルトラスト報」の発行・配布(隔月刊)

年間6回の発行で内容の充実した会報作りを行っている。会員へ配布するとともに、事業協力者へも広く頒布し、ナショナル・トラスト活動の普及に努めた。

<体裁>B5 16頁 <発行部数>2,100部

<通巻>549号~554号

549号(5月1日発行)特集「気仙沼・風待ち地区の文化財再生プロジェクト」

550号(7月1日発行)特集「今年のしごと」

551号(9月1日発行)特集「輪島市文化財保存活用地域計画の認定と今後のまちづくり」

552号(11月1日発行)特集「足りないものは、まちを使う!~かみいけ木賃文化ネットワークの取り組み」

553号(1月1日発行)特集「受け継がれる美しい手仕事 [縁付金箔編]
~人肌の職人言葉たち」

554号(3月1日発行)特集「まちづくりに志ある資金を~民間出資型『鞆まちづくり会社』の取り組み」

②ウェブサイト、SNSでの情報発信

ウェブサイト等を積極的に活用し、会員や JNT に関心のある層への情報発信に努めた。ウェブサイトは随時修正を行い、フェイスブックはリアルタイムな発信を心掛け更新に努めた。会員の皆さまと双方向でつながるツールとして好評を得ており、現在、約 730 人がフォローしている。その他、各事業でフェイスブックやインスタグラムを開設しタイムリーな情報発信を行った。

③メールマガジンなどの普及宣伝ツールの活用

新型コロナウイルスの影響等でイベントの中止が相次いだため、定期的な情報発信は困難であったが、メールマガジンを不定期で配信した。(登録者数 約 560 名)

④関係団体の広報協力

本年度も地下鉄博物館(東京都江戸川区)に JNT とトラストレインのパンフレットおよびトラストレインの維持修復を呼び掛ける募金箱を設置していただいた。駒井家住宅および旧大乘院庭園については、JR 西日本や叡山電鉄から継続的に広報協力を得ており、保護資産およびプロジェクトを通じ、広く JNT の紹介を行っていただいた。さらに、JR 東海および JR 西日本の協力により、東海道新幹線車内誌「ひととき」(2022 年 6 月号)で長浜鉄道文化館および北陸線電化記念館(長浜鉄道スクエア)を掲載いただいた。

(3) その他普及事業

①地域遺産支援プログラムの実施

地域遺産を支援するための事業として、本年度は、主に岐阜県大野郡白川村と山梨県甲州市の上条集落で事業を実施した。

(ア)岐阜県大野郡白川村

地域遺産支援のパイロット事業として、本年度も白川村と協働で茅の自給率向上の取り組みを行った。毎年 11 月に開催している茅刈りイベント「われらが紡ぐ白川郷かややねプロジェクト—秋の一斉茅刈り—」について、白川村に関心のある首都圏在住の若者らと白川村民による「かややね会議」を開催し、企画内容を検討してきた。本年度は、新型コロナウイルスの感染状況にかんがみ参加人数を制限して、11 月 12 日~13 日に茅刈りイベントを実施した。12 日に一般参加者 26 名で茅刈りを行い、13 日は茅文化を体験するため「茅で正月飾りをつくろう」というプログラムを行った。また、かややね会議で企画した、白川村の茅文化を PR するツール「かややねすごろく手ぬぐい」を作成し、当日販売を行った。現在、手ぬぐいは一般にも販売を行

っている。日本マーケティング学会カスタマー・エンゲージメント研究会のメンバーである茨城キリスト教大学経営学部田口尚史教授を中心にした論文「世界文化遺産の維持および保全へのサードパーティ・エンゲージメント」で、かややね会議が研究対象として取り上げられた。

(イ)山梨県甲州市 上条集落

もう一つのパイロット事業として、過去に観光資源保護調査を実施した山梨県甲州市の上条集落で、農業体験などを通じた集落の活性化活動を支援した。4月2日～3日に、JNTと「上条を活性化する会」（以下、「活性化する会」）との共催で、「10名限定！上条集落の春を楽しむ まちあるきワークショップ」を開催した。当日は一般参加者8名、住民16名が参加して、農業体験、まちあるき、ワークショップ、交流会、伝統行事のレクチャーなどが行われた。行事が終わった後のアンケート調査では、一般参加者全てがこのイベントを「とても良かった」と評価するなど大変好評であった。また、上条集落の住民にとっては、一般参加者から客観的に上条集落を評価してもらう機会となり、大きな刺激となったと評価された。JNTと住民団体が連携して企画内容を検討し、大きな成果に繋げることができた。その他、月1回開催される活性化する会の定例会に職員が出席し、地域の歴史マップづくりについて住民と準備を進めた。7月9日には活性化する会主催の収穫祭が開催され、職員が参加し運営補助等を行った。

②他団体主催イベント等の後援

- ・「第45回全国町並みゼミ新潟市大会」

主催：特定非営利活動法人全国町並み保存連盟

後援名義期間：承認の日～6月12日

4. 支援事業

地域遺産を取巻く多様な課題に対応し、より多くの地域の活動を支援することができるようにするため、新たな公益事業として支援事業を行うこととした。このため内閣府に公益目的事業変更認定の申請を行い、内閣総理大臣より3月29日に変更認定を受けた。今後のJNT事業の大きな柱として支援事業に取り組むため、必要な体制の検討を行い、事業の進め方やスキーム等の検討を行う準備会を発足させることとした。

5. ネットワーク事業

- (1)「全国鳴砂ネットワーク」への参加

11月13日に福島県いわき市で「2022 全国鳴砂サミット IN いわき」が開催され、総会などに職員が出席し、運営に協力した。

<会期> 11月12日～13日

<会場> いわきワシントンホテル(福島県いわき市)

(2) ヴォーリズ建築文化全国ネットワーク

総会などに職員が出席した。

<会期> 6月11日～12日

<会場> 京都バプテスト教会礼拝堂など(京都府京都市)

(3) 全国近代化遺産活用連絡協議会

総会は書面決議により行われた。9月15日に横浜市で全国近代化遺産活用連絡協議会鉄道遺産部会横浜フォーラム(鉄道開業150周年記念事業)が開催された。また、10月1日から11月30日に実施された「近代化遺産全国一斉公開2022」に駒井家住宅が参加した。(金土曜日の公開日)

(4) 一般社団法人日本茅葺き文化協会

茅葺き文化フォーラム総会などに職員が出席した。

<会期> 5月14日～15日

<会場> うきは市文化会館(福岡県うきは市)

6. 団体交流事業

文化財や自然環境の保護・保全を目的とする各種団体と交流を図り、情報の交換、事業協力を行った。また、国内の諸団体や海外のナショナル・トラストをはじめとする環境保全団体等と交流を行い、情報収集に努めた。

(1) 国内交流事業

① 国内保護団体との連絡連携および情報の交換

(ア) 文化財指定庭園保護協議会

6月23日～24日に青森県弘前市で総会が開催され、職員が出席し、情報交換と交流を行った。

(イ) 全国町並みゼミ

6月11日～13日に新潟県新潟市で開催された「第45回全国町並みゼミ新潟市大会」に職員が出席した。分科会ではパネラーを務め、JNTの事業紹介を行った。

(ウ) 全国伝統的建造物群保存地区協議会

5月19日～20日に広島県呉市で総会が開催された。

(エ) 歴史的景観都市協議会

10月27日～28日に徳島県三好市で大会が開催された。

② JNT が参加登録を行っている諸団体

(公社)京都市観光協会、(公社)国際観光施設協会、(公社)日本観光振興協会、(一社)日本茅葺き文化協会、(公財)日本交通公社、一水会(観光関係団体懇談会)、京都市内博物館施設連絡協議会、文化財保存全国協議会、文化財指定庭園保護協議会、産業考古学会、鉄道友の会、日本鉄道保存協会、文化遺産信託研究会、全国近代化遺産活用連絡協議会、湘南邸宅文化ネットワーク協議会、ヴォーリズ建築文化全国ネットワーク

③ その他

(ア) 文化遺産信託研究会との交流

前年度 JNT が発足に協力し、会員として参加している文化遺産信託研究会のメンバーが4月22日に旧安田楠雄邸庭園を訪れた。マネージャー、ボランティアとの意見交換が行われ、当財団の職員も出席して交流した。

(イ) 公益財団法人ヒロセ財団の留学生受入れ

事業賛助団体であり団体会員でもある公益財団法人ヒロセ財団からの要請を受け、同財団の留学生を受け入れて、旧安田楠雄邸庭園の見学やボランティアスタッフとの交流を行った。10月から1月の間に83名の留学生を受け入れ、国際交流に努めた。

(ウ) 公益財団法人日本国際教育支援協会の留学生受入れ

団体会員である公益財団法人日本国際教育支援協会が文化理解促進事業として11月27日に実施した留学生向けスタディツアーに協力した。旧安田楠雄邸庭園を会場として21名の留学生が参加し、ボランティア活動や日本文化の体験実習を行い、日本文化および JNT の活動に対する理解を深めた。

(エ) (一財) ハウジングアンドコミュニティ財団への協力

(一財) ハウジングアンドコミュニティ財団からの依頼を受け、JNT 職員が「住まいとコミュニティづくり活動助成事業」選考委員会委員の委嘱を受け、事業協力を行った。

(2) 国際交流事業

① 海外保護団体との連絡連携および情報の交換等、国際交流の推進

本年度も歴史遺産・自然環境の保護・保全を目的とするナショナル・トラスト活動を行う世界各国の各種団体と交流を図り、情報の交換、事業協力に努めた。

② 交流を図っている団体

英国ナショナル・トラスト(名誉会員)

米国ナショナル・トラスト(会員証によるプロパティ相互入場協定締結)

オーストラリア・ナショナル・トラスト(会員証によるプロパティ相互入場協定締結)

ニュージーランド・ナショナル・トラスト(会員証によるプロパティ相互入場協定締結)

クイーンエリザベスⅡ世ナショナル・トラスト(会員証によるプロパティ相互入場協定締結)

ジョージア州ナショナル・トラスト(会員証によるプロパティ相互入場協定締結)

フィジー・ナショナル・トラスト(会員証によるプロパティ相互入場協定締結)

バミューダ・ナショナル・トラスト(会員証によるプロパティ相互入場協定締結)

7. その他

(1) 新型コロナウイルス感染症に関する対応について

「運営を支える緊急支援募金」を継続して実施した。本年度は269,500円の寄付があった。新型コロナウイルス感染拡大防止のため政府、東京都などの発信情報を参考に基本方針を定め、在宅勤務や時差出勤などの対応を行った。また、職員のための業務用スマートフォンを導入し、リモート勤務のための環境の整備を図った。新型コロナウイルス感染症に関するガイドラインなどに基づき、臨時休業となった保育所に通う子どもを持つ職員に対し、特別休暇を付与し、小学校休業等対応助成金の申請を行った。

(2) 事業賛助等の協力要請について

新型コロナウイルスの感染拡大が、当財団の財政に深刻な影響を与えている中、従来の法人に加え、建設や自動車販売関連等幅広い業界などに賛助依頼を行った。その結果、多くの企業・団体から支援を継続して頂き、新たな協力も得られた。

(3) 職員研修の実施

職員の企画能力向上のための研修を実施した。4回の研修を通してJNTのあるべき姿や目指す成果について職員間でディスカッションを行い、成果指標の設定などを行った。

IV 登記事項、届出・報告・申請事項

1. 登記事項

2022年6月21日

- ・梅崎 壽理事・大庭 靖雄理事・岩崎 悟志理事・小川 孝行理事・苅谷 勇雅理事・久保田 穰理事・柴崎 信三理事・志村 格理事・杉浦 雅也理事・鈴木 雅和理事・高橋 弘行理事・福本 啓二理事・降幡 賢一理事・廻 洋子理事・森まゆみ理事の再任、川村 恒明理事・木部 義人理事・高野 光司理事の退任、銭谷 眞美理事・中村 仁理事・美里 隆司理事の就任(2022年6月14日付)
- ・今村 正監事・佐藤 栄治監事の再任

2. 届出・報告・申請事項

2022年6月29日

- ・事業報告等の提出(内閣府)

2022年7月21日

- ・変更の届出(内閣府)

2022年9月30日

- ・税額控除に係る証明申請(内閣府)

2022年10月17日付認定

2023年1月5日

- ・変更の届出(内閣府)

2023年1月12日

- ・変更の届出(内閣府)

2023年1月16日

- ・変更の届出(内閣府)
- ・変更認定申請(内閣府)

2023年3月29日付認定

2023年3月31日

- ・事業計画書等の提出(内閣府)

参考

アドバイザー名簿 (2023年3月31日現在)

アドバイザー 大塚 陸毅 東日本旅客鉄道(株)顧問
(以上アドバイザー1名)

顧問名簿 (2023年3月31日現在)

| | | |
|----|----------------|------------------------------------|
| 顧問 | 石原 進 | 九州旅客鉄道(株)特別顧問 |
| 顧問 | 泉 雅文 | 四国旅客鉄道(株)相談役 |
| 顧問 | 大塚 雄二郎 | 大塚化学(株)特別相談役 |
| 顧問 | 大橋 洋治 | ANA ホールディングス(株)相談役 |
| 顧問 | 尾関 宗園 | 大徳寺大仙院閑栖 |
| 顧問 | 門脇 邦彦 | 日本空港ビルデング(株)名誉会長 |
| 顧問 | 柄澤 康喜 | MS&AD インシュアランスグループホールディングス(株)取締役会長 |
| 顧問 | 小山 薫堂 | 放送作家 |
| 顧問 | 小山 正宣 | 前・(公財)日本ナショナルトラスト理事長 |
| 顧問 | 島田 修 | 北海道旅客鉄道(株)代表取締役会長 |
| 顧問 | 須田 寛 | 東海旅客鉄道(株)顧問 |
| 顧問 | 田村 明比古 | 成田国際空港(株)代表取締役社長 |
| 顧問 | 富田 哲郎 | 東日本旅客鉄道(株)取締役会長 |
| 顧問 | 根津 嘉澄 | 東武鉄道(株)取締役社長 |
| 顧問 | 原田 一之 | 京浜急行電鉄(株)取締役会長 |
| 顧問 | 伏見 勝 | 元・報知新聞社最高顧問 |
| 顧問 | 星野 晃司 | 小田急電鉄(株)代表取締役社長 |
| 顧問 | 真鍋 精志 | 西日本旅客鉄道(株)相談役 |
| 顧問 | MARI CHRISTINE | 異文化コミュニケーター |
| 顧問 | 宮田 亮平 | 金作家(前・文化庁長官) |
| 顧問 | 宮原 博昭 | (株)学研ホールディングス代表取締役社長 |
| 顧問 | 村田 光平 | 元・駐スイス大使 |
| 顧問 | 山村 明義 | 東京地下鉄(株)代表取締役社長 |
| 顧問 | 山本 亜土 | 名古屋鉄道(株)相談役 |

(以上顧問24名)

観光資源専門委員名簿（2023年3月31日現在）

| | | |
|----------|-------|----------------------|
| 観光資源専門委員 | 尼崎 博正 | 京都芸術大学教授 |
| 観光資源専門委員 | 井手 久登 | 東京大学名誉教授 |
| 観光資源専門委員 | 河東 義之 | 小山工業高等専門学校名誉教授 |
| 観光資源専門委員 | 鈴木 邦雄 | 横浜国立大学名誉教授・元学長 |
| 観光資源専門委員 | 西村 幸夫 | 東京大学名誉教授 |
| 観光資源専門委員 | 西山 徳明 | 北海道大学観光学高等研究センター教授 |
| 観光資源専門委員 | 三隅 治雄 | 東京文化財研究所名誉研究員 |
| 観光資源専門委員 | 本中 眞 | (独)国立文化財機構奈良文化財研究所所長 |

(以上観光資源専門委員 8 名)